

『英語喪失についての理解』

服部孝彦(言語学博士、大妻女子大学・同大学院教授、早稲田大学講師)

【はじめに】

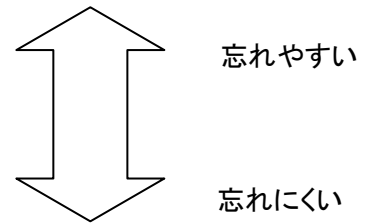
子どもが身に付けた外国語を忘却することをあらわす表現として下記のうちどれがもっとも適切か。

- ① Language loss
- ② Language shift

【What is being lost? How it happens? Why it happens?】

外国語の「何」を「どのように」、「どうして」失うのか？

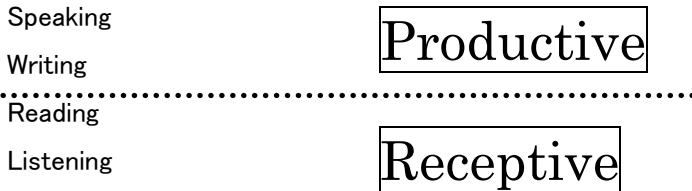
- ① **Lexical Attrition** : 語彙(単語など)
- ② **Morphological Attrition**: 形態素(三単元の"s"や、動詞の過去形など)
- ③ **Syntactic Attrition**: 構文(語順など)
- ④ **Phonological Attrition**: 音声(外国語独特のリズムや発音)



例えば構文でできた柵の上に単語があり、そこから適切な単語を取り出す「手」がさび付くことを「検索失敗」と呼び、外国語保持とはそれら「手」や「柵」を修復する作業といえる。なお、幼児～低学年の子どもは「柵」自体が未完成であるため、外国語保持が困難と言われているが、学齢が高くなる程、しっかりとした「柵」が構成できているため、一般的に外国語保持が成功する可能性は高くなるといわれている。

【どのように保持したらいいのか？】

言語の4技能を「言語保持」に着目してカテゴライズする場合、能動的な技能と受動的な技能に分けることができる。



「能動的」技能よりも「受動的」技能の方が圧倒的に保持しやすいことが第二言語忘却研究によってわかってきた。日頃から家庭で「受動的」技能を使った読書を継続的に続ける努力が必要になってくる。

子どもの外国語能力と保護者の外国語能力について、相関性はあまり無いといわれているが、保護者の外国語に対する「態度」は相関性があると考えられている。特に、学齢が小さな子どもはその影響を受けやすいので、親と一緒に外国語に取り組む姿勢を見せることが重要である。一般的に外国語を話す際に単語が出てこなくなる、流暢さを失っていくことで、子どもは自信を失い、保護者はその様子を見て焦る傾向があるが、ある程度は自然現象で仕方がないということを理解することが重要である。発音やリズムといった失われにくいものについては貴重な財産であることを褒めつつ、子どもが外国語への関心を失わないように導いていくことが何より大切であるといえる。